



DoRAT

第3号

2018年4月発行No.03

東日本大震災

杖・手すり、生活基盤を奪われた災害弱者。たくさんの人たちが発災直後からリハビリを必要としていた。

北海道防災訓練に参加して

平成29年度北海道防災訓練「災害対策本部訓練」の見学

まず平成29年8月29日に、災害対策本部の見学を行いました。奇しくも同日早朝に北朝鮮のミサイルが発射された日程でもあり、緊張感が高まった訓練となりました。昨年度庁内に設置された危機管理センターで万全な装備の中、様々な職種団体のメンバーが協力して情報交換していく様子を見ることができました。



平成29年度北海道防災訓練「避難所開設・運営のための実践型1泊訓練」の参加

避難所開設・運営 実践型1泊訓練

日時：平成29年9月1日～2日

場所：白石区北郷小学校

記載者：井上真奈美

市町村の防災担当者に対してDoRATの熊本での災害支援報告を行う機会を頂きました。さらに実際に

リアルDoはぐとして、避難所を開設し実際の小学校内で運営する訓練を行いました。炊き出しで温めたカレーでは温かい食事のありがたさを痛感しました。また、体育館で段ボールベッドや寝袋を用いた宿泊体験は、床で寝ることの辛さを体感しました。HUGは停電の設定であり、暗闇のどの部分に簡易トイレやストーブを置くかなど、机上だけで想定するよりもさらに細かな問題・課題のイメージ化に繋がりました。

市民参加型避難所運営訓練

日時：平成29年9月1日～2日

場所：札幌市中央区緑ヶ丘小学校

記載者：櫻井貴之

参加者はお子様連れのご家族が多いせいかアットホームな雰囲気があり、防災訓練として地域住民が参加しやすく、災害備蓄食の食事や自衛隊仮設風呂の入浴は避難所生活の体験として有意義であると思われました。DoRATが依頼を受けたのは体操の紹介で、翌朝起床後に参加者と一緒にラジオ体操と、生活不活発病・エコノミークラス症候群の予防の体操、飲み込みの体操について資料を配布し、見本を提示しながら一緒に行ないました。



避難所設営・運営訓練（東区会場）

日時：平成29年9月2日

場所：札幌市東区栄緑小学校

記載者：工藤篤志

約200名が地区ごとに4グループに分かれて、校内やグラウンド、体育館に設置されたブースを回り、住民が避難所を設営・運営できるように講義を受け、昼食に自衛隊の炊き出しを体験しました。

DoRATは要配慮者への注意事項を熊本地震での支援体験を踏まえて講義させていただきました。また、段ボール工作コーナーも担当し、段ボール椅子やテーブルなど避難所で役立つ物の作製や、おもちゃ作りなど子どもたちの遊びの場を提供しました。



【北海道版～Doはぐ～に関するお問い合わせ】

北海道総務部危機対策局危機対策課

TEL 011-204-5008 (防災グループ直通)

e-mail somu.bosai22@pref.hokkaido.lg.jp



Doはぐとは

避難所運営ゲーム北海道版のことDoはぐと呼び、多くの道民が避難所運営を自分事と捉え、自らの備えや地域の防災対策の課題に気づくことにより、地域防災力の向上が図られることを目指している。

今回、平成29年12月11日付けで、DoRATの5名がDoはぐマスターに認定されました。井上真奈美、工藤篤志、櫻井貴之、畑原理恵、早川康之、(五十音順)の5名です。Doはぐ研修を実施される方はお声かけください。

[第6回 研修会報告]

平成 29 年度 介護予防事業等における訪問アドバイザー養成研修会

昨年2017年1月、災害時の支援コーディネート研修会を開催しました。災害に関する研修会が少ないこともあり、全道各地から多くの方が参加され災害リハビリテーションの必要性・重要性や他職種との連携、平時の備えが大切であることを学びました。近年は北海道においても、台風による河川の氾濫や土砂崩れなどによる被害も多く発生し、避難所が設置された地域もありました。避難所生活においてもリハビリテーション



開催研修会の様子

の視点からの支援が重要です。そこで、災害リハビリテーションを支援する上

で必要な知識や実践的な考え方を学び、来るべき災害に備えるとともに、後方支援コーディネーターと現地コー



熊本理学療法士会理事 佐藤 亮氏

ディネーターの役割を担える人材を育成する研修会を2018年1月13～14日札幌で開催しました。北海道内の地域包括ケアシステムに関わるリハビリテーション専門職が対象で、熊本地震の際に実働したコーディネーター、南富良野町の活動報告など、具体的な内容を含み盛りだくさんのプログラムでした。



ター、南富良野町の活動報告など、具体的な内容を含み盛りだくさんのプログラムでした。

北海道リハビリテーション学会報告

事務局 光増 智

第62回北海道リハビリテーション学会が、2017年7月29日北海道大学医学部臨床講堂にて開催されました。一般演題のほか、「災害を想定した他組織連携」をテーマに、教育講演としてJRAT代表 栗原正紀先生から「地域包括ケア時代の地域 JRAT 組織化」のご発表を頂きました。熊本地震でのJRATの支援活動のほか、長崎県では県医師会と連携して組織化を図られているといった内容のご発表でした。引き続き公開討論会が開催され、栗原先生に加え、指定演者として私が

DoRATの現状と課題を発表し、北海道リハビリテーション専門職協会 太田誠会長から、熊本地震における専門職協会とDoRATの支援活動についてご発表頂きました。聴講として北海道庁から医務薬務課青山雅人課長にご参加頂きました。公開討論会では、今後の道内での災害リハビリ支援について、特に我々の組織化や道医師会、道庁との連携について熱い議論が交わされました。

「南富良野の台風10号による洪水被害調査について」

平成29年9月6日、調査班で南富良野町役場を訪問しました。道内で起きた災害の実際を知り、DoRATが果たせる役割を明確にし、支援方法を具体的に考えるためです。

南富良野町役場保健福祉課増田氏と保健師小林氏に、洪水の被害状況、避難所・福祉避難所の運営状況、要配慮者の対応について話を伺いました。リハ職がいない地域ですが、普段から顔が見えるコミュニティが形成されていたことで、洪水により電子データや紙データが使えなくても町民1人1人の健康状態、介護状態を把握し対応できていた事、避難行動がスムーズであった事、生活不活発病になるような高齢者は迅速に他の施設に搬送する事などが、被害を最小限に抑えられる結果となっていました。生活不活発病やエコノミクス症候群の予防に、DoRATとの協働の必要性を理解して下さり、何かあれば積極的に関わってほしいと要望ありました。

今後、役所や役場との連携をさらに深めていきたいと思っております。



JRAT

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-8-5
日本理学療法士協会内

03-6804-1422

ホームページ

<http://www.jrat.jp/>

DoRAT

〒005-8555

札幌市南区川沿2条2丁目3番1号

社会医療法人医仁会

中村記念南病院院内

TEL: 011-573-8555(代)

担当 光増 智

メール

teamdorat@gmail.com

ホームページ

<http://dor.at.jimdo.com/>